

Vol.21 No.1 '98

1998年11月30日 発行 目次

第29回日本消化吸収学会総会を終えて	5
国立国際医療センター 梅田典嗣	
〈特別講演1〉	
腸管内基質と腸上皮細胞の機能調節	6
滋賀医科大学 第2内科 馬場忠雄	
〈特別講演2〉	
The pathophysiology of the intestinal absorption and metabolism of folate: clinical applications	16
J.B.Mason (U.S.D.A Human Nutrition Research Center on Aging at Tufts University)	
〈教育講演〉	
消化器疾患とOral tolerance	17
慶應義塾大学 内科学 日比紀文	
〈シンポジウム〉	
炎症性腸疾患における脂肪投与量と脂肪酸組成をめぐる(司会総括)	21
秋田県総合保健センター 正宗 研	
福岡大学筑紫病院 消化器科 松井敏幸	
腸リンパ装置および腸管炎症に対する長鎖脂肪酸の影響—リンパ球migrationの面より—	22
慶應義塾大学医学部 消化器内科 穂苅量太 他	
ラット小腸潰瘍モデルに対するミド酸前投与による抑制効果の検討	27
大阪大学 小児外科 吉田 洋 他	
クローン病活動期ならびに緩解期における脂肪酸動態について	28
東京医科大学 内科4講座 杉浦弘和 他	
クローン病の栄養療法における脂肪量と脂肪組成に関する検討	31
滋賀医科大学 第2内科 岡本敏彦 他	
クローン病患者の経腸栄養療法時の魚油附加投与の有用性	35
兵庫医科大学 第4内科 福田能啓 他	
活動期Crohn病における消化態栄養剤の短期治療効果— 脂肪含有量の異なる栄養剤の比較—	40
福岡大学筑紫病院 消化器科 櫻井俊弘 他	
Crohn病患者における脂肪摂取量:発症及び再燃との関連について	41
国立国際医療センター 消化器科 正田良介 他	
Crohn 病再燃は脂肪によるのか蛋白質によるのか— 摂取食事内容の分析から—	45
社会保険中央総合病院 内科 高添正和 他	
平成10 年4 月開催のDDW-Japan1998 に部分参加	

シンポジウム2「消化吸収障害における腸内細菌叢の役割」	49
(日本消化吸収学会・日本消化器病学会合同)	
(司会総括)兵庫医科大学 第4内科 下山 孝	
国立国際医療センター 消化器科 松枝 啓	
胃切除後の腸内細菌叢の異常増殖と吸収障害	50
兵庫医大 第4内科 田村和民 他	
種々の消化器疾患における消化吸収障害:呼気中H₂/CH₄ の検討から	55
帝京大学 内科 星野恵津夫 他	
小腸常在性腸内細菌と上部消化管機能	61
ヤクルト本社・中央研究所 梅崎良則 他	
Helicobacter pylori除菌療法前後のニホンザルの腸内細菌叢	65
兵庫医大 第4内科 福田能啓 他	
大腸疾患における腸内細菌叢の特異的变化とその対策	69
和歌山県立医大 第2外科 梅本善哉 他	
長期経腸栄養による腸内細菌叢の変化とbacterial translocation	74
新潟大学 第1外科 香山誠司 他	
簡便な腸内細菌診断法の開発	75
中国労災病院 外科 高橋 信 他	
血中胆汁酸測定による腸内細菌過剰増殖及び吸収不良の両病態の鑑別	78
筑波大学 臨床医学系消化器内科 松崎靖司 他	
慢性下痢症における消化吸収障害の合理的治療法開発の試み: その動物モデルにおけるBacterial Translocationの意義及び対策	85
国立国際医療センター 消化器科 正田良介 他	
腸内細菌の侵襲時における小腸粘膜防御機構とグルタミン経口投与の有用性について	89
滋賀医大 第2内科 全 活 他	
腹部高度侵襲手術時における Endotoxin translocation血清Endotoxin生物活性決定因子としてのsCD14	93
東京大学 第3外科 比企直樹 他	

あとがき

消化吸収については最近関心が高く、多方面にわたる研究の進展がみられるが、1998年7月11日国立国際医療センター院長梅田典嗣先生のもと第29回日本消化吸収学会総会が新宿の京王プラザホテルを会場として開催され、特別講演、教育講演、シンポジウムおよび一般講演が行われました。

今回は基礎とくに臨床面からみて意義の高いシンポジウムの「炎症性腸疾患における脂肪投与量と脂肪酸組成をめぐって」および「消化吸収障害における腸内細菌の役割」をはじめとして、一般演題その

他を通じて、本学会が基礎面と並行しながら臨床面とが車の車輪のような関係で行われていることは本学会の益々の発展が期待されることです。

今年には本誌に掲載された研究発表を対象とした学会賞が制定されてはじめての受賞が行われました。このことは本学会にとって優れた研究発表、会員の新たな増加が期待されることです。

さて今年には例年になく台風の発生が少ないといわれながら、秋には台風が繰り返し来襲し、爪跡を残していましたが、これからは澄んだ秋空のように気持ちを新たにして前向きの姿勢で、研究に診療に、また本誌が会員の皆様に役立つようにとりくんで参りたいと存じます。

(Y・M)